

【改めて“ヒト”と“組織”を考えるシリーズ11】

現場の“改善”をジャマする“総論病”？

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【当たり前のことが難しい“現場”】

コスト削減や効率化、あるいはミス撲滅のためなどで“現場の業務”にメスを入れなければならないことがあります。

しかし、ただ“現場の状況を正確に把握する”という“当たり前”にできそうなことが、意外に難しいと感じることはないでしょうか。

【原因は“観察力”の低下？】

特に、現場の担当者が“注意深く”仕事をしていない時、つまり“無意識”に“流れに任せて”働いている時、現場が見えにくくなるのです。

無意識な状況では、私たちの“観察力”は大いに薄れ、その結果として問題の根やチャンスの芽を容易に見落とししてしまうからでしょう。

【改善取り組みの前に必要なこと】

そのため、業務の改善やコスト削減に取り組む前には、“いきなり企画や対策を導入”してしまいうのではなく、まずは“現場の観察力を向上させる”ことが大事になるはずなのです。

個々人が自分の観察力を高め、問題やチャンスに“個々具体的に注目”するようになると、自ずと解決策は見えてくるのかも知れません。

【“具体的な観察”をジャマするもの】

ただ、そんな“個々具体的な注目”を害する傾向が、今社会全体に蔓延しているかも知れません。それは“総論病”とも言うべきもので、個々具体的なものを“それらしい言葉でまとめてしまう”という傾向なのだそうです。

【社会に蔓延する“総論病”とは？】

たとえば、『日本人はこんな国民だ』と総論的に決めつけてしまうと、私たちの多様な個性や価値観には、つい“目が届きにくく”なります。個人の違いを客観的に“観察”する気分も薄くなるかも知れません。

それが“問題を生む”レベルにまで至ると、“総論病”と呼ばれるようになるわけです。

【レポートを定期購読しませんか？】

しかし、それは今の企業組織に、どのように影響しているのでしょうか。そして何を考え、どんな対策を考えればよいのでしょうか。“総論病”に陥らないよう、具体的な“事例”を通じてまとめた“経営レポート”をご用意いたしました。

**定期購読（有料）希望者には当レポートを毎月お送りしますので、ご遠慮なくご一報ください。**

組織現場が経営者の“意図”通りに動かないとか、業務改善の検討がなかなか進まないなどの問題は、しばしば“総論病”と呼ばれる現象から起きるのだそうです。

“総論病”とは、“抽象的な言葉で物事をまとめてしまっ、個々に具体的にとらえる”ことを避ける現象だそうですが、それは実際には“どのように”生じるのでしょうか。そして、どう対処すべきなのでしょう。



少数精鋭でビジネスに取り組む皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』にご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

わたくしたちは、“ヒト”に関する重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます！